目録と LC-MARC について

Cataloging and LC-MARC

石川 徹也*

図書館短期大学文献情報学科

高 鷲 忠 美**

図書館短期大学図書館学科

(現: 静岡県立女子短期大学)

1. はじめに

図書館サービスの根底にあるものが、資料の書誌的データ(以下目録データとする)であろう。資料の増加と利用の多様性に対して、整理業務もサービス業務も一館ではとても対応できない現状にある。当然そこに、国際的なレベルでの相互協力が必要となる。国際的なレベルでの相互協力の理想形は、目録データの集中管理と頒布のシステムである。そのためには、ネットワークが必要になり、目録データの記述の標準化が必要になる。ネットワーク化の動きは、国際的なレベルでは UNISIST の構想に始まり、国家的なレベルでは The British Library を中心とする英国のプランに例を見るように一層の変化がある。目録データの記述の標準化については、IFLA を中心として ISBD (M), (S) が、UNESCO を中心として ISSN が、そして FID を中心として UDC の整備があり、いずれも実施の方向に動いている。

このような動きは、今日始まったものではないが、電子計算機の利用の可能性が現実化して急速に発達した。この先鞭をつけたのが、LC-MARC プロジェクトであろう。目録データの電子計算機を利用した処理について述べるに当たって、目録の問題それ自身をはずしては考えられない。目録データの意義をもう一度考え、その動きを展望し、LC-MARC プロジェクトを中心に以下で資料を紹介しながら概括する。

2. 目録データについての理解

目録データは、図書館業務全般について中心となるデータである。目録作業の結果作られる目録データ・ファイルは、特に、図書館の利用の側面から考えると、①資料の所蔵の有無と②排架(資料ファイル)の位置の確認に、そして③資料の探索にとって重要なツール(道具)となる。さらに、図書館業務——資料の収集・受入れ、整理、資料および情報の提供——を遂行するためにも重要なツールといえる。これらの機能を果たすために、目録データは、資料の書誌的事項(bibliographic data)と標目(headings)を、利用しやすい形式として、図書カードあるいは冊子体に記述する方式で表現されている。書誌的事項は資料の書誌的属性が、標目は資料の内容が対象となり、特に標目は、目録データのファイリングと探索の手掛かりになる。目録データ・ファイルは、図書館業務遂行のためにも、利用のためにも公共性を必要とする。特に、相互利用のためにも、国際的なレベルの記述形式が必要となる。記述形式の規則として、各種の目録規則があり、最近では、目録データの電子計算機での処理を容易にすることも考慮の対象として、国際標準書誌記述(ISBD (M), (S): International Standard Bibliographic Description for Monograph, for Serials)が提唱された。標目の統一的な表現形式には、特に異国語間の差をなくすために UDC に代表される分類表のような記号形式が用いられ、さらに英語が国際的な言語であることから、標目を英語で表示した各分野のシソーラスがツール

* Tetsuya ISHIKAWA: National College of Library Science

** Tadayoshi TAKAWASHI: Shizuoka Women's College
(Formerly: National College of Library Science)

として用いられている。

図書館資料は、人類の共通の財産として公共性の高いものであるが、所蔵の差があり、どうしても片寄りがある。そのためにも、相互協力を計っていかなければならず、目録データの公開・交換が必要となる。目録データの公開・交換には、今迄に主に所蔵の有無を明らかにする主たる目的のために、冊子体の所蔵目録(holding list)が用いられてきた。

資料の増加とスピーディーな利用の要求のためには、新刊資料の目録データをいち早く知る必要があることと、統一ある目録データ・ファイルを作る必要がある。さらに広い意味での探索のツールも必要になる。このような目的に応じられるツールは、各出版元で出す新刊ニュースでは対応できず、どうしても国家的なあるいは国際的なレベルで作成する総合目録(international/national union catalogue list)が必要になり、主に、国立図書館が中心となって作成してきた。目録データは、特に頒布のためのスピードと容易さ、さらに利用の容易さのために、プルーフ・リスト形式、カード形式、マイクロ・フィルム形式、磁気テープ形式で頒布されている。例えば、プルーフ・リスト形式には、週2回の単位で MLA(The Medical Library Association) が頒布している NLM の CATLINE(Catalog On-Line) のシステムを通して作成される Current Catalog Proof Sheets があり¹⁾、カード形式には、わが国の場合国立国会図書館で頒布している印刷目録カードがあり、マイクロ・フィルム形式には、ハワイ州中央図書館購入整理センター(Centralized Processing Center)で Information Design, Inc. の Microfilm Cartridge System を利用して作成・利用している例があり²⁾、磁気テープ形式には、米国議会図書館で週単位で頒布している機械(電子計算機)可読目録データ・テープ(LC-MARC II: the Library Congress-Machine Readable Catalogue II) 等がある。

3. 目録に関する動向

個別目録作業から集中目録作業へと向かい、さらに目録作業をより効率的に進めるための各種のプロジェクト——例えば、Shared Cataloging プログラム、Cataloging-in-Publication(CIP)、各国の MARC プロジェクト等が推進され、国際的規模で目録データを流通させるための標準化が行われ、Universal Bibliographic Control(UBC)を IFLA が中心となって行おうとしている。

3.1. UBC について

現在 IFLA は、各国の全国書誌を国際的に標準化することによって、おびただしい量にのぼる資料の中から必要とされる情報を正確に迅速に検索できるシステムを作成しようとしている。これが UBC であり、この原則・目標を次のようにいうことができる。「図書についての情報は、できるだけ早い時期に、できるだけ完全に、そして正確に作成されねばならない。迅速性、正確さ、簡単さのために、その図書が出版された国の全国書誌によってこの情報を告知しなければならない。そして、そのデータは、機械可読形式で利用できねばならない。」³⁾ 換言すると、図書が印刷される時から図書館での目録作業までを単一のプロセスとして考え、扱うことを目的とする。

このような意味での目録作業に使用する目録規則の標準化として国際的レベルで考え、実行に移されたのが、1961年にパリで開催された国際目録原則会議(ICCP)であり、さらに1969年にコペンハーゲンで開催された国際目録専門家会議(IMCE)である。ICCPでは、目録記入の標目ならびに記入語の選択と形式の国際的標準化を規定した“Statement of principles”(以下パリ原則)が承認され、以後世界各国の目録規則がこのパリ原則に基づき改訂または新しく作成された。パリ原則については、各国の間で解釈の違うところがあり、1971年にパリ原則の注釈版の決定版が E. Verona によって準備され、出版された⁴⁾。

IMCE では、記述部分の国際的標準化を目的とした ISBD が討議された。単行書を対象とした ISBD(M)は、1974年に第1標準版が刊行され、逐次刊行物を対象とした ISBD(S)も同年勧告案が刊行された。

ICCP から IMCE にいたる年月の間に、書誌システムに対して電子計算機を利用した情報処理が増加したことにより、IMCE では目録記入の記述部分の原則を確立しようとする立場から ISBD が討議され、一図書館内での目録作業という立場から全国書誌への出版物の記録という立場に変化した。この変化は、後に IFLA によって UBC の主要な政策の1つとして認められる。このことは出版元の標準記録の確立に基礎を置いた国際書誌流通システムを要求した IMCE の決議にもうかがえる。

3.2. UBC のための2つの仕様書

D. Anderson のいうように、「Shared Cataloging プログラムが、国際書誌流通システムの青写真であるとすれば、パリ原則と ISBD は、このシステムが動けるようにする2つの仕様書である。」⁵⁾

この2つの仕様書に基づいて、各国の全国書誌はその国で出版される新刊図書の標準記述を準備する。この全国書誌は、将来の技術的發展と経済性の程度によって、印刷カード、冊子目録、磁気テープ、マイクロ・カタログ等といった製品の形態をとり、これが国際書誌流通システムの媒体—すなわち UBC の媒体一となる。この国際書誌流通システムの効果は、書誌記述の形式とその標準化がいかになされているかによって決定される。

2つの仕様書のうち、パリ原則は各国によって解釈の違いがあり、注釈版の決定版が Verona によって準備されたことは前に述べた。この違いのなかでも、団体著者の扱いについては非常に困難性と多様性があるということから、現在 Verona が IFLA のために各国の目録規則中の団体著者の扱いと全国書誌における団体記入、さらに国際的な情報機関、抄録・索引サービスでの団体著者の扱いを検討しており、近いうちに報告がでる予定である。

ISBD は、書誌記録の効率的な国際間利用に必要とされる次の3点に合わせて作成された。

①一国あるいは一言語の利用者によって作成された記録が、他国でそして他の言語の利用者によって容易に理解されること。

②それぞれの国で作成された記録と他の国で作成された記録とが、支障なく種々のファイルやリストに一本化できること。

③手書きあるいは印刷形式での記録が、最小限の編集で機械可読形式へ変換されること。

この目的を達成するためには、記述される諸要素が、その内容を理解することなく目あるいは機械によって識別できなければならないので、ISBD では所定の句読記号を採用し、また各エリア、各エレメントの順位は一定にしている。従って、記述の主エリア内では、それぞれの所定の句読記号はそれに続く要素の内容を示す記号である。この句読記号は、言葉あるいは句を分離しまたその間の関係を示す。記述に関しては、世界各国がそれぞれの慣用を持っていたので、妥協的な句読記号が定められたのであろう。

さて、ISBD (M) で忘れてならないのは、ISBD (M) を適用して生れた記述がそれだけでは使用されず、通常目録中あるいは書誌のリストにおける完全記入の一部を形成するだけで、目録記入を配列するのに使われる要素は、決して ISBD (M) の一部を形成していないことである。いうまでもなく、目録記入を配列するための標目

は、ICCP で承認されたパリ原則によって選ばれる。

3.3. 国立国会図書館の UBC における役割

UBC の国内センターとしての国会図書館には、いろいろな機能があるが、ここでは全国書誌作成機関として ISBD を原則として全面的に採用する際の問題点を述べる。

日本で出版される出版物すべてについて標準書誌記述を行い、それで全国書誌を作成し国際的な情報交換の一環としての機能を果たすために ISBD の全面的採用が国会図書館に要求されている。こうした機能を果たすためには、国会図書館が日本で出版される出版物を全面的に把握し、収集することが前提になる。国会図書館が、現在以上により広範囲に体系的に出版物を収集することが必要とされ、さらに大学図書館等との分担収集および分担目録作業も考えられなければならない。国内分担収集目録作業のネットワークとして、国会図書館を中心とした全国的規模の集中目録作業を形成することが不可欠である。詳しい実体は分からないが巷間に噂されている JAPAN-MARC についても、こういった体制があって始めてその効果・威力を十分に発揮するものと思われる。国会図書館は、もっとネットワーク作りを国内の図書館に呼びかけ、真の国立図書館として機能してもらいたい。

その場合に、例えば印刷カードを例にとると、より早く、より簡単に、どの図書のカードでもいつでも手に入るようにするといった努力を国会図書館自らが示さずに他の図書館に協力要請をしたところで、何の効果もないだろう。1974 年の日本図書館協会全国大会整理技術部会での数人の参加者の発言にみられたように、各図書館は印刷カードを利用したいのだが、国会図書館がその門戸を手続きの問題で、あるいは遡及性の面でその要求に背を向けているというのが本当なら、全く残念であり国会図書館の再考をうながしたい。

UBC の一環として、ISBD を採用して目録作業を行うにしても、国内の一般図書館に対しては従来通りの、つまり ISBD 固有の句読記号を使用しない印刷カードを配布することを忘れてはならない。日本は単一言語の国であり、日本語は漢字の入った文ならスペースを空けるだけで語を識別できるので、国内で使う分には ISBD の句読記号は必要ないと考えられる。

こうした面で国会図書館がどうしても機能しない時は、その目録作業の製品をより効果的に頒布するための商業ベースにのっとった機関設立の構想を、あるいは書誌情報活動にのみ責任を持つ新しい国立図書館の構想を

考えるべきだろう。

3.4. CIP について

全出版物の標題紙の裏に、標目、書名、注記、トレーシング、分類番号、件名標目を含む権威のある目録記入が記載されていたら、カタログガーが同一の出版物の目録を各図書館で重複してとることがなくなり、カタログガーは彼の真の専門性を発揮できる特殊な出版物の目録作業、あるいは利用者の目録等の利用への協力といった分野等に従事することができ、図書館全体の活動にとっても非常に有益になる。このような目録記入を、国立図書館が集中目録作業の1つとして行い、MARC テープあるいは印刷カードとの組合せによって書誌情報流通システムを構成していたら、各図書館の目録作業への強力な助けとなる。

1971年7月1日から LC が行っている CIP 計画がまさにそれである。現在、ブラジル、ソ連でも CIP を実施しており、IFLA では CIP に関する調査を今行っているが、ここでは LC の行っている CIP の概略を述べる。

1974年8月末現在で、748の出版社がこの計画に参加し、計画が始まって以来総計38,190冊が CIP で処理された。現在、アメリカ国内の全出版物の少なくとも70%がこの計画でカバーされている。

CIP のデータは、標目、書名、注記、トレーシング、分類番号、件名標目といった要素から成っており、これは出版社が LC に送ったゲラ刷りや前付け等によって専門職のカタログガーが決定する。CIP の書誌データが出版社に送られてすぐ、機械可読形の記録がテープに記録され、他の完全な MARC 記録と一緒に毎週予約購読者に頒布される。この予約購読者が、多くの一般利用者に書誌情報サービスをこの記録に基づいて行うのである。MARC テープの迅速な頒布により、CIP に参加した図書に対する書誌的記録を、出版される4~6か月前に使用することが可能である。出版された図書が CIP のオフィスに送られてくると、前に作成した目録データと現物とを照合し、図書を受取って1週間以内に完全な目録データが印刷にまわされる。印刷から発送の過程に通常4週間かかる。そして、LC に図書が届けられて5~6週間後のカードが印刷された後に、完全な LC-MARC II テープとして頒布される⁶⁾。

各図書館は、MARC テープを収集の段階から利用して、収集から整理までを1つのシステムとして機能させることができ、また図書によってどの段階で目録カード

を作成するかを非常に柔軟に考えることができる。何よりも、CIP に入っている図書については、記述目録だけを行えばよいので、CIP に入っていない図書、あるいは外国書の目録に専門職のカタログガーを集中でき、非常に効率的である。

日本と米国とは、著作権登録の違いとか、国立図書館の歴史の違い、あるいは文化の違いといったことから早急な実現は日本では困難かも知れないが、是非とも実現したい計画である

3.5. 目録の物理的形態について

目録の物理的形態が、目録の本質にかかわってきて、目録の目的・機能を再検討する必要がある、近い将来出て来る可能性がある。機械可読形の目録あるいは電子計算機によって作成されたマイクロ・カタログにその点注目したい。特に機械可読形の目録では、情報の内容の変更なしにその物理的固有性一媒体一を変えることが可能であり、さらに重要なのは利用者の要求に応じた検索方法に情報を組み替えることが可能なことである。

この機械可読形の目録の特性は、Charles A. Cutter 以来言われてきた目録の2つの目的・機能、すなわち、

①特定図書の検索、

②特定著者の著作あるいは特定著作の版の検索、

について、相互に矛盾があるという議論や、双方をとものに満足させる目録を作成することにつきまとうていた困難性を次第に解決してゆくと思われる。

4. 電子計算機可読目録データ・ファイル (MARC)

資料の増加と利用の多様性から、目録データを国家的レベルあるいは国際的レベルで処理すべきであるとして LC-MARC プロジェクトを手本に、英国、ドイツ、フランス等ヨーロッパを中心とする諸国で計画及び実施している。わが国でも、国立国会図書館が準備中 (JAPAN-MARC) である。

以下では、LC-MARC プロジェクトの変遷、その内容等を簡単にまとめ、目録データの集中処理 (centralized processing for cataloguing) の問題点について述べる⁷⁾。

4.1. LC-MARC プロジェクトの経過

納本の増加に伴って人員を増加させたいへんなことになるという発想から、1961年に LC 内に、図書館の機械化の可能性を調査・研究するために、Office of the Information を発足させたのが、LC-MARC プロ

ジェクトの始まりと考えてよいだろう。Office of the Information は後に、今の Information System Office (ISD-LC) となり、1963 年にレッド・ブックと呼ばれ有名な、*Automation and the Library of Congress* (King, Gbert W., ed.) を報告した⁹⁾。報告には、①書誌の事項データを電子計算機で処理できる可能性と、②資料の収集・受入れ、整理、目録作成、貸出し管理、利用調査、会計管理等図書館業務全般を対象に計画すべきであり、③そのためには1972年まで、システム化にかかるとしている。そして特に②については、目録データの電子計算機での処理は、印刷目録カード、各種書誌の作成と配布に有効であるとしている⁹⁾。そして、1965年3月に ISD-LC を正式に発足させ、1966年2月に Council on Library Resources の資金を得て、新着の英語の図書に限って目録データの作成を開始して、1966年11月から週単位で、LC の協力館ということで16館に限定頒布を開始した。LC の協力館は、1967年6月までに24館となり、実際に使用し意見を出していった。この時期の LC-MARC プロジェクトを LC-MARC I (MARC Pilot Project) という¹⁰⁾。協力館、ALA, NLM, NAL, COSATI 及び BNB 作成の経験を生かして UK-MARC を計画し始めた The British Museum 等の意見を基に、書誌的事項のデータを整備して、MARC II フォーマットとして、1968年8月よりテスト・テープの頒布を開始し、1969年3月より一般の希望機関に頒布を開始した。

タグ・リスト (目録データ要素) (数字: タグ番号)

*: 図書館短大の例のブルーフ・リストのための省略記号

* Control Field Descriptions	
001 (Library of Congress Control Number)	LC CALL NO
008 (Fixed Length Data Element)	DATA ELEMENT
Control & Knowledge Number	
015 (National Bibliography Number)	NBN
020 (Standard Book Number)	SBN
025 (Overseas Acquisitions Number)	OAN
040 (Cataloging Source)	DATA SOURCES
041 (Languages)	LANGUAGES
043 (Geographic Area Code)	GHOGRA AREA
050 (LC Call Number)	LC CALL NO
051 (Copy Statement)	COPY STAT
060 (NLM Call Number)	NLM CALL NO
070 (NAL Call Number)	NAL CALL NO
082 (Dewey Decimal Classification Number)	DDCN
Main Entry	
100 (Personal Name)	MA-PERS NAME
110 (Corporate Name)	MA-CORP NAME
111 (Conference or Meeting)	MA-CONF. MEET
130 (Uniform Title Heading)	MA-UNIF TITL
Supplied Titles	
240 (Uniform Title)	ST-UNIF TITL
241 (Romanized Title)	ST-ROM TITL
Title Paragraph	
245 (Title)	TITLE
250 (Edition Statement)	EDITION
260 (Imprint)	INPRINT
Collation	
300 (Collation)	COLLATION
350 (Bibliographic Price)	BIBLPRICE
Series Notes	
400 (Personal Name-Title (Traced Same))	SN-PERS-TITL
410 (Corporate Name-Title (Traced Same))	SN-CORP-TITL
411 (Conference-Title (Traced Same))	SN-CONF-TITL
440 (Title (Traced Same))	SN-TITL
490 (Series Untraced or Traced)	SN-TRAC OR UN
Bibliographic Notes	
500 (General Notes)	BN-GENERAL
501 ("Bound With" Notes)	BN-BOUND WITH
502 (Cissertation Notes)	BN-DISSERT
504 (Bibliography Notes)	BN-BIBL

505 (Contents Notes 'Formatted')	BN-CONTENTS
520 (Abstract or Annotation)	BN-ABSTR ANNO
<u>Subject Added Entries</u>	
600 (Personal Name)	SAE-PERS NAME
610 (Corporate Name)	SAE-CORP NAME
611 (Conference of Meeting)	SAE-CONF. NEET
630 (Uniform Title Heading)	SAE-UNIF TITL
<u>LC Subject Heading</u>	
650 (Typical)	SH-TOPICAL
651 (Geographic Name)	RH-GEOGR NAME
<u>Other Added Entries</u>	
700 (Personal Name)	OAE-PERS NAME
710 (Corporate Name)	OAE-CORP NAME
711 (Conference or Meeting)	OAE-CONF. MEET
730 (Uniform Title Heading)	OAE-UNIF TITL
740 (Title Traced Differently)	OAE-LIFF TITL
<u>Series Added Entries</u>	
800 (Personal Name-Title)	SAE-PERS-TITL
810 (Corporate Name-Title)	SAE-CORP-TITL
811 (Conference or Meeting-Title)	SAE-CONF-TITL
840 (Title)	SAE-TITL

になっている。出版年や対照事項データは、出版された後、修正 CIP というので入力されている。その他に、目録データの修正、重複入力による削除データが入力されている。1973年3月28日から1974年3月25日までの1年間に頒布されたテープは52本(Vol. 5, No. 1~No. 52)であるが、新着目録データ、修正 CIP データ、修正データ、削除データを合わせ、218,554 レコードあり、その内新着目録データは、130, 592 レコードである。1本のテープは平均4,230 レコードで、新着目録データは平均2,510 タイトルである(石川調査)。

4.3. 問題点——JAPAN MARC の実施を想定して(大きく捉えて)——

①実施機関の問題

目的から考えて、国家的レベルあるいは国際的レベルで行なうべきプロジェクトであろう。国家的レベルで各国が自国のプロジェクトを推進し、国際的な機関を通して交換できるようになるのが理想であろう(NIST および UNISIST の計画の例になるように)。

②収集とカバー率の問題

LC もわが国の国立国会図書館も国立図書館とは言え、議会のための図書館である。The British Library は、純粋な国立図書館である。著作権の問題を含め、納本制度だけにたよる方式で、どれほどのカバー率が得られようか。

③選択の問題

純粋な国立機関を組織して収集し、選択・目録作成をしなければ、カバー率だけの問題だけではなく、膨大な量となり、利用のための処理時間が相当なものになる。また収集データに片寄りが出てこよう。

④多目的利用の問題

MARC プロジェクトの本来の目的は、目録データの統一的使用であるが、図書館全般に関する業務のマスター・ファイルとなるよう整備が必要になろう。LC-MARC I から LC-MARC II への前進の意味もここにあったと思われる。

4.2. LC-MARC II テープ

LC-MARC II テープは、週単位で発行されている。契約機関が使用するという前提のもとに LC と契約すれば、年間約1,000ドルで購入できる。頒布テープは、600フィートの磁気テープで、文字コードは ASCII であり9トラックと7トラック構成を選択でき、蓄積情報密度は800 bpi (byte per inch)で奇数パリティ方式の構成になっている。1974年以降のテープから、フランス語の資料の目録データも入るようになった。以後、順次ドイツ語・ロシア語の資料も対象に入力することを計画している。新着図書の日録データが中心であるが、RECON (Retrospective Conversion of Bibliographic Data) プロジェクトの実施によって、さかのぼって未入力の分も入力している。目録データの整備にのみ LC-MARC II テープが使用されることを目的するのではなく、他の業務のツールにも使用できるように書誌的事項データは、非常に詳細に記録されている(タグ・リスト参照)。その良い例として、1971年7月から特に収集・選書業務に大いに役立つと思われる、CIP (Cataloging in Publication) データが入っている。出版元が出版前にゲラを LC に送付してきた時点で、目録データを入力すること

テープ Vol. 5, No. 1 のプルーフリスト (図書館短期大学文献情報学科 HITAC-8210出力)

☆☆☆MARC TAPE PROOF LIST☆☆☆ 1973, 093 PAGE : 1

LC CTRL NO (001) 62002203//R722
 DATA ELEMENT (008)720830S1962 COUA B 10000 ENG
 LC CALL NO (050)TK7870 -- ,1574 1960
 MA-CONF. MEET (111)INTERNATIONAL ELECTRONIC CIRCUIT PACKAGING SYMPOSIUM,
 -- 1ST, -- BOULDER, COLO., -- 1960.
 TITLE (245)ADVANCES IN ELECTRONIC CIRCUIT PACKAGING; -- PROCEED-
 INGS, -- EDITED BY GERALD A. WALKER.
 EDITION (250) <2D ED.>
 IMPRINT (260)ENGLEWOOD, COLO., -- <ROGERS PUB. CO.> ; DISTRIBUTED BY
 PLENUM PRESS, NEW YORK -- <1962>
 COLLATION (300)381P. -- ILLUS. -- 26 CM.
 BN-GENERAL (500) "SPONSORED BY THE UNIVERSITY OF COLORADO AND-EDN
 <ELECTRICAL DESIGN NEWS)."
 BN-BIBL (504)INCLUDES BIBLIOGRAPHICAL REFERENCES.
 SH-TOPICAL (650)ELECTRONIC APPARATUS AND APPLIANCES -- PACKAGING --
 CONGRESSES.
 OAE-PERS NAME (700)WALKER, GERALD A., -- ED.
 OAE-CORP NAME (710)COLORADO, -- UNIVERSITY.
 OAE-UNIF TITL (730)ELECTRICAL DESIGN NEWS.

LC CTRL NO (001) 62012948//R70
 DATA ELEMENT (008)700715C19631962PAU B 00000 ENGD
 LANGUAGES (041)ENGHEB
 LC CALL NO (050)BS1223 -- 1963
 DC NO (082)222/. 1/052
 MA-UNIF TITL (130)BIBLE. O. T. PENTATEUCH. ENGLISH. 1963. JEWISH PUBLICATION
 SOCIETY.
 TITLE (245)THE TORAH, <TORAH (ROMANIZED FORM)> THE FIVE BOOKS OF
 MOSES.
 EDITION (250)<1ST ED., 2D IMPRESSION>
 IMPRINT (260)PHILADELPHIA, -- JEWISH PUBLICATION SOCIETY OF AMERICA
 -- <1963, C1962>
 COLLATION (300)393 P. 22 CM.
 BN-GENERAL (500) "A NEW TRANSLATION OF THE HOLY SCRIPTURES ACCORDING
 TO THE MASORETIC TEXT. FIRST SECTION."
 OAE-CORP NAME (710)JEWISH PUBLICATION SOCIETY OF AMERICA.

LC CTRL NO (001) 67031252
 DATA ELEMENT (008)730321R19731893MAU 00100BENG
 SBN (020)0878211047
 LC CALL NO (050)G246, B8 -- B8 1973
 DC NO (082)910/. 92/4 -- B
 MA-PERS NAME (100)BURTON, ISABEL (ARUNDELL) -- LADY, -- 1831-1896.
 TITLE (245)THE LIFE OF CAPTAIN SIR RICHD F, BURTON.
 IMPRINT (260)BOSTON, -- MILFORD HOUSE -- <1973>
 COLLATION (300)P.
 BN-GENERAL (500)REPRINT OF THE 1893 ED., PUBLISHED BY CHAPMAN AND HALL,
 LONDON.
 SAE-PERS NAME (600)BURTON, RICHARD FRANCIS, -- SIR, -- 1821-1890.

⑤相互利用のためのネットワーク化の問題

MARC テープの頒布だけにとどまるのではなく、そのためのシステム化も同時に進める必要があろう。

4.4. LC-MARC II に関連する参考文献

目録データの電子計算機の利用による処理については
 書誌的事項データ, 目録作成, MARC テープの作成,

そのフォーマット, 標準化, 利用別の処理方式, 各国の動き, ネットワークの問題等, あらゆる方向からの検討が必要である。以下に示す文献は, 特に LC-MARC プロジェクトを中心について述べている最近の資料である。この他にも多くの文献があるが, 日本での文献を中心に以下に示す。

① LC-MARC プロジェクトを中心とする文献紹介

- Stockard, J.: Selective survey of MARC literature.
Library Resources and Technical Services, 15:279
~286, 1971

◦ Library automation

In: Annual Review of Information Science and Technology

Vol. 7, Matin, S. K., 243~277, 1972

Vol. 8, Simmons, P., 167~201, 1973

② LC-MARC の経緯と LC-MARC テープの説明, UK-MARC 計画, 目録データ及び目録データの記述の問題と LC-MARC II テープの利用等について, 包括的にまとめている。

- Torkington, Roy B.: MARC and its application to library automation.

In: Advances in librarianship, Ed. by Melvin J.

文部省—図書館短期大学プロジェクトによる配布カードの例 (株 アジア・ビジネス・コンサルタント委託処理)

Voigt. Vol. 4. Academic Press, 1974. p. 1~23.

③ MARC II テープ・フォーマットと目録データ要素の説明が成されている資料。

- 丸山昭二郎, 井上哲也共編

洋書目録マニュアル

日本図書館協会, 282 頁, 1970.

- 丸山昭二郎

マーク II フォーマット—Subscriber's Guide 要約—
「機械化シリーズ」No. 1, 32 頁。

国立国会図書館業務機械化準備室 (691101)

- Library of Congress. The Information Systems Office: *MARC Manuals—Used by The Library of Congress*—, 2nd ed.

Information Science and Automation Division,
American Library Association, 1970

(フォーマットの説明だけでなく, LC における

Sherif, Muzafer, 1905- comp.
Interdisciplinary relationships in
the social sciences. Edited by Muza-
fer Sherif and Carolyn W. Sherif.
Chicago, Aldine [1969]
xvi, 360 p. illus. 25 cm.
Based on lectures presented at a
symposium held at the Pennsylvania
State University in May 1967.

(continued on next card)

1/2

68-8161

(2)

Includes bibliographies.

1. Social sciences--Addresses, essays, lectures. I. Sherif, Carolyn W., joint comp. II. Title.

H61.S518

300

2/2

68-8161

MARC II テープの作成作業についても、標題にあるようにマニュアルとして、その説明が詳しく述べられている。)。

④マイクロ・フィルムと並んで磁気テープによる情報交換は、今後もますます盛んになるはずである。レコード・フォーマットの標準化は、利用する側にとって、必要なことで、ISBD と並び検討されている。

・Documentation—*Format for bibliographic information interchange on magnetic tape*. Ref. No., ISO 2709~1973 (E) 4p. (First edition—1973—07—01)

⑤LC-MARC II テープの日本国内の利用には、小規模ながらも、また MARC テープの利用の目的から考えて十分に活用しきれないながらも、国家的レベルの利用に、文部省及び図書館短期大学が中心となって行っている国立大学附属図書館への目録カード配布のための利用と、国立国会図書館の書誌編さんのための利用とがある。また、機関内利用を目差して実験レベル・利用レベルのシステムを確立している所に、(特)アジア経済研究所、国立国会図書館、慶応義塾大学研究・教育情報センター、図書館短期大学文献情報学科等の例がある。

・吉川藤一, 他

MARC II 磁気テープの利用による目録カード配布プロジェクト

「ドクメンテーション研究」23 (5): 141~146, 1973.

・高柳和夫

図書館機械化調査研究班報告 (文部省配布 MARC 打出し目録カード利用についてのアンケート集計結果)

第20回国立大学図書館協議会総会, 133~164, 1973.

・小田泰正

4-1. 国立国会図書館の機械化

In: 「図書館の機械化—電子計算機の導入と資料管理—」専門図書館協議会, 1974. p. 81~98.

・アジア経済研究所

MARC II-SDI 説明資料, 47年11月。

・東京大学宇宙航空研究所 (高柳和夫)

MARC テープを利用した SDI, 28 頁, 48 年 7 月。

・倉橋英逸

大学図書館と MARC——プラクティカルアプローチ——「東京大学図書館情報学セミナー・研究集録」No. 1, (1972 年前期), p. 91~150.

・倉橋英逸

MARC II 磁気テープの使用法

「大学図書館研究」No. 2: 19~31, 1973.

・細野公男

慶応義塾大学における MARC テープの利用システム

Library and Information Science No. 12. 81~108, 1974.

・石川徹也

図書館短期大学設置電算機システム HITAC-8210 における LC-MARC II テープの処理

「図書館短期大学紀要」第9集: 13~24, 1975.

(及び) 同マニュアル (TT-MARC システム・マニュアル)

⑥ LC-MARC II テープの概説・意義, 英国, オランダ, ドイツでの利用方等と UK-MARC 計画等について 16 のトピックスがそれぞれ簡潔にまとめられている。

・The exchange of bibliographic data and the MARC format: Proceedings of the international seminar on the MARC format and the exchange of bibliographic data in machine readable form, sponsored by the Volkswagen Foundation, Berlin, June 14th-16th 1971.

Bibliothekspraxis, Band 6,

Verlag Dokumentation, München-Pullack, 1972, 196 p.

⑦英国国立図書館 (the British Library) を中心とする図書館全国ネットワーク計画は、すでに有名である。英国全国書誌 (British National Bibliography) と UK-MARC プロジェクトについて、特に、帰朝報告がある。

・松村多美子

British National Bibliography の機械化

—BNB/MARC プロジェクト—

「ドクメンテーション研究」24 (9): 349~356, 1974.

⑧ JAPAN-MARC について、国立国会図書館が49年度予算を計上したことが話題となったが、正式な計画レポートは、まだないと思われる。日本図書館協会の情報管理委員会が、国立国会図書館の小田・能勢両氏を中心に懇談会を持ち、その報告の中に多少の展望が記録されている。

・日本図書館協会・情報管理委員会 (記録: 丸谷治一)

「日本 MARC」計画の意図を探る (情報のひろば, No. 11)

「図書館雑誌」98 (9): 410~412, 1974.

⑨ LC-MARC プロジェクトおよび目録に関する新しい動向については、その度 *Journal of Librarianship*, *Journal of Library Automation*, *Library Resources and Technical Services*, *Aslib Proceedings* 等の雑誌に論文もしくはニュースとして掲載されるが、カレントには、特に次の2点に目を通しておく必要がある。

- *Library of Congress Information Bulletin*, LC (CIP Program) に参加・契約した出版社が、毎号紹介されている。
- *International Cataloguing: Quarterly Bulletin of the IFLA Committee on Cataloguing*

参 考 文 献

- 1) Melvin, S. Day: Computer-based retrieval services at the National Library of Medicine
Federation Proceedings, 33 (6): 1717~1718, 1974.
- 2) 鈴木徳三, 他
ハワイ図書館印象記
「教育学術新聞」871号(昭和49年5月22日発行)
(高鷺見聞ノートも含めて)
- 3) Kaltwasser, F. G.: Universal bibliographic control (U. B. C.) *Unesco Bulliten for Libraries*, 25 (5): 252~259, 1971.
- 4) Verona, E.: *Statement of principles*, adopted at the International Conference on Cataloguing Principles, Paris, October, 1961.
Annotated ed. with commentary and examples.
Definitive ed. London, 1971.
- 5) Anderson, D.: International standardization of cataloguing and bibliographical records; the work of the IFLA Committee on Cataloguing,
Unesco Bullitem for Libraries, 27 (2): 66~71, 107, 1973.
- 6) Cataloging in Publication; mini symposium,
Library Journal: 2573~2583, Oct. 15, 1974.
- 7) LC-MARC II テープの作成過程, NLM, NAL とのオン・ライン計画および各国の MARC 計画等, 本来ならばここで動向をまとめるべきであるが, 文献が乏しくかつ時々変化している様子であり, また見聞なくして無理である故, LC-MARC II テープを実際に動かしてみた経験からその内容を紹介することにとどめる。米国を中心とする各国の計画の動向について, 国立国会図書館電算機課の島村隆夫氏が JAPAN-MARC 計画のために, 50年1月6日に約3か月の予定で視察に出掛けられた。いずれ帰国の後報告されるということであるので, それらを見ていただきたい。(この記載については, 島村氏に了解済)
- 8) King, G. W., et al.: *Automation and the Library Congress*, LC, 1963. 88p.
- 9) Markuson, Barbara E.: A System development study for the Library of Congress automation program.
Library Quarterly, 36: 197~233, 1966.
- 10) Avram, H. D.: *The MARC Pilot Project: Final Report*, LC, 1968. (昭和50年1月11日受付)